

項目	確認事項	届出内容	
基本情報	大学等名1(代表大学等)	大阪工業大学	
	大学等名1(代表大学等)※カナ	オオサカコウギョウダイガク	
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F127310107901	
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	大阪府	
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学	
	科目名	インターンシップ	
	学部・研究科等名	工学研究科、知的財産研究科、情報科学研究科、工学部、知的財産学部	
	担当教職員名・役職	就職部就職課 係長 村上一葉、同部同課 課員 村岡直樹	
	受講者数実績年度	令和3年度	
	受講者数※インターンシップ参加者数	100	
	受入企業等数	49	
	受入企業等名	(株)ナイキ、(株)日水コン、(株)笠谷工務店 他46団体	
	インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ	
		7.大学院生を対象とした研究インターンシップ	
8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ			
9.中小企業でのインターンシップ			
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)			
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい	
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事	
		2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)	
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容		
1-3.上記回答内容に関する詳細	企業ごとに設定されたプログラム内容に沿って就業体験を行う。 工場での技術実習、現場での実習、インターンシップ生同士での課題解決等、実施内容は多岐にわたるが基本はOJTを中心に、OFF-JTも取り入れた内容となっている。		
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい	
	2-2.該当するインターンシップの内容	5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している	
		6.当該インターンシップは、選択科目として実施している	
		7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している	
		8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している	
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容		
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部3年	
		大学院 修士1年	
大学院 専門職1年			
2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位		
	大学院 1単位		

		大学院 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	学部3年生及び大学院1年生を対象に授業を開講。大学内で行う座学を中心とした事前・事後学習と夏期休業期間中に5日間以上の実習を行う。就業体験や参加型学習によって必要な情報を収集し、自らキャリアプランの方向性を確認する。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	緊急事態宣言下での実習実施企業が多かった為、インターンシップ期間中の定期的な面談は行わず、学生・企業への問合せ窓口で随時対応した。
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	全5回（6コマ）の事前学習を実施。第1、2回目でインターンシップへと参加する意義、目的、マナー・心構えを伝え、第3、4回目ではプレゼンテーション講習・発表を行った。第5回目では就業体験期間中の日報作成、体験後のレポート作成について指導した。	
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	全2回（2コマ）実施。第1回目は就業体験を終えて感じたことや学んだことを、どのように今後の学びに活かすかを考えさせる座学を行い、第2回目はグループに分かれ、学生一人一人が自身の就業体験に関する発表を行った。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	就業体験中の受入中止や、コロナ感染等多くの事態が発生し、その都度フォローで連絡及び面談を行った。また実習内容や期間が変更となった学生には報告をさせ、実習状況の把握をすると共にフォローを行った。	
要素	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	

④	4-3.上記回答内容に関する詳細	事前・事後学習では毎回学生にアンケートを取り、インターンシップ参加への意識変化を確認すると共に、就業体験後にはアンケート、レポートを通じて学生の感想や意識調査を行っている。またその回答結果を踏まえ、授業内容、就業体験の内容の変更を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	5日間～10日間（5日間以上を必須として、実習日程は受入企業が設定）
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	6-3.上記回答内容に関する詳細
6-3.上記回答内容に関する詳細	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	
問い合わせ先	大学等名	大阪工業大学
	担当部署名	就職部 就職課
	担当者役職名	課員
	担当者氏名	村岡 直樹
	電話番号	06-6954-4093
	メールアドレス	MURAOKA.Naoki@josho.ac.jp